

草津市住民ランダムサンプル1800人の追跡研究

NCD疫学研究センターを中心に放射線科、脳神経外科、循環器内科、糖尿病内分泌・腎臓内科、呼吸器内科等と共同で行っています。

一般地域住民を対象とし、動脈硬化・認知症等の危険因子および予防因子を明らかにすることを目的とした研究です。

主な検査

全身の動脈硬化およびその関連要因を調査しています

頭部MRI検査



脳の動脈硬化
脳体積

24時間
心電図検査



CT検査

心臓の動脈硬化
(冠動脈*石灰化)

*: 心筋梗塞・狭心症を起こす血管

24時間
血圧測定



頸動脈 エコー検査

頸動脈の動脈硬化

認知機能検査

身体機能検査

睡眠時無呼吸検査

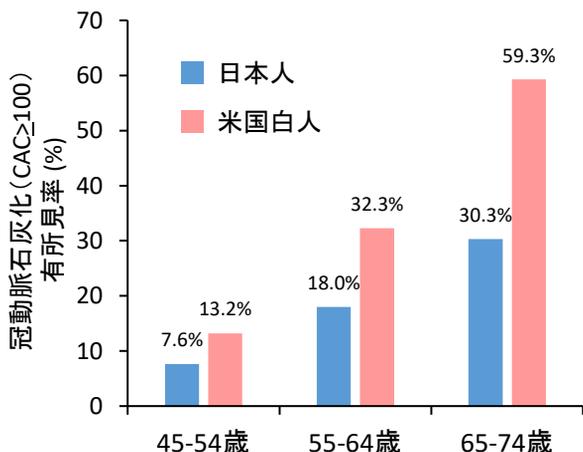
呼吸機能検査

主な結果

ホームページもご覧ください
<https://shiga-publichealth.jp/sessa/>

日本人と米国白人における 心臓の動脈硬化が進展している人^{*1}の割合

(日本人男性 (SESSA参加者)と米国白人男性)

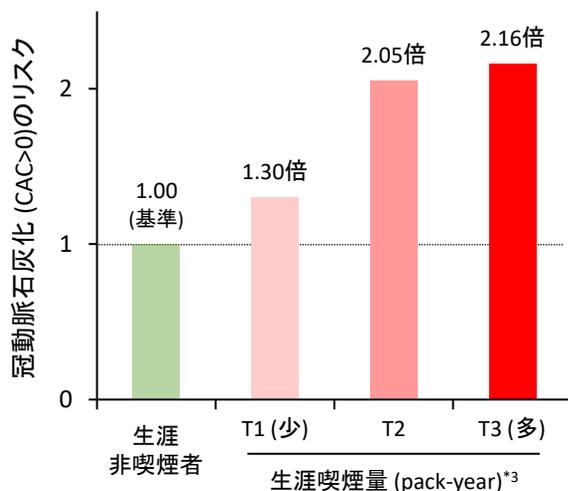


米国白人に比べ日本人では心臓の動脈硬化が
少ない傾向でした。

*1: 冠動脈CTによる石灰化CAC \geq 100

(Fujiyoshi A, et al. Am J Epidemiol 2014)

喫煙習慣と心臓の動脈硬化^{*2}



非喫煙者に比べ喫煙量が多い人で、心臓の
動脈硬化が2倍以上進んでいました。

*2: 冠動脈CTによる石灰化CAC $>$ 0

*3: 1日に吸う箱数 × 喫煙年数 (T1: $<$ 29.1, T2: 29.1-46.7, T3: \geq 46.8 pack-year)

(Hisamatsu T, et al. J Am Heart Assoc 2016)